

児童養護施設で暮らす子どもたちの自立を経済的に支援  
“タイガーマスク運動支援事業”（群馬県 前橋市）

### ○事例概要

- ・親との死別等を理由に児童養護施設で育つ子どもが施設で暮らせるのは原則18歳までであり、退所の際に多くの子どもが親等の援助が望めず不安を抱えている。
- ・そこで、平成22年にタイガーマスク運動を始めた河村正剛氏（市内在住）とともにふるさと納税によって全国の賛同者に支援を求め、社会全体で子どもの巣立ちを支えるプロジェクトを平成29年3月に開始。
- ・ふるさと納税による寄付を活用して、退所後の支度金として1人あたり15万円を支給。平成29年11月からは自動車教習所の協力を得て就職の必須条件である自動車運転免許の取得費用の全額助成を開始。



### ○寄付実績

平成28年度 2,250千円

平成29年度 25,018千円

※タイガーマスク運動とは

2010年12月25日、群馬県内の児童相談所に架空の名義「伊達直人」よりランドセル10個が贈られたことをきっかけに、日本全国に広がった運動

### ○事業効果等

- ・退所後の経済的不安からアルバイトせざるを得ず、部活動や学業の夢を諦めてしまうような環境が改善され、社会に巣立つ上での夢や希望を持てるようになった。また、お金だけではなく、自分たちを支援しようと考えている人がいるという事実が、子どもたちの心の支えとなっている。
- ・新生活支度金は平成28、29年度に計15名に支給し、また、自動車免許取得支援は平成29年度に4名を支援するなど、多くの子どもたちの自立につながっている。